

ケアサービス (2425・JASDAQ グロース)

2020年9月3日

新型コロナへの対応に注力、ドミナント化をさらに強化

リサーチノート

(株) QUICK
豊田 博幸

主要指標 2020/9/1 現在

株 価	505 円
発行済株式数	4,200,000 株
時 価 総 額	2,121 百万円

直前のレポート発行日

ベ ー シ ッ ク	2020/6/24
リサーチノート	2020/3/12

業 績 動 向	売上高 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円	
20/3 期 通 実 績	9,055	1.7	122	-45.6	124	-46.0	242	155.4	63.85	
21/3 期 1Q 実 績	2,007	-11.0	-14	-	-10	-	-16	-	-4.36	
21/3 期 通	会 社 予 想 (2020年8月発表)	8,431	-6.9	60	-50.9	69	-43.9	23	-90.2	6.25
	アナリスト予想	8,450	-6.7	100	-18.6	100	-19.8	50	-79.4	13.18
22/3 期 通	アナリスト予想	8,850	4.7	300	200.0	300	200.0	180	260.0	47.45

21/3 期 1Q は 14 百万円の営業赤字

21/3 期 1Q の連結業績は、売上高が前年同期比 11.0%減の 20 億 7 百万円、営業損益が 14 百万円の赤字(前年同期は 4 百万円の黒字)。売上高を事業別にみると、サービス付き高齢者向け住宅事業を 19 年 12 月に事業譲渡した影響(20/3 期 1Q の売上高 1 億 59 百万円)が大きかった。主力の在宅介護サービス事業は訪問入浴の好調に加え、新規顧客の獲得や増店効果があったが、デイサービスが新型コロナウイルスの感染拡大に伴う既存顧客の稼働率低下が響き、前年同期比 4.0%減の 15 億 38 百万円。シニア向け総合サービス事業は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う受注件数の減少などから同 5.2%減の 4 億 69 百万円。利益面では営業拠点のドミナント化などで効率性が向上したものの売上総利益率が 20/3 期 1Q 10.9%→21/3 期 1Q 9.1%に悪化。販管費は前年同期比 18.2%減らしたが営業赤字を余儀なくされた。

足元の状況を踏まえ従来予想を見直し、次の成長に向け新型コロナ対策に注力

QUICK 企業価値研究所による 21/3 期の連結業績予想は、売上高を 85 億 50 百万円→84 億 50 百万円(前期比 7%減)に減額するが、営業利益は 1 億円(同 19%減)に据え置く。新型コロナウイルスの感染が続いており、感染防止に関する対策などが続くため、デイサービスを中心に稼働率の低下が続く。訪問入浴の強化、営業拠点のドミナント化、高採算のシニア向け総合サービス事業の店舗増強などを進める考えだ。従来予想に比べ、売上高を減額するが、効率化の進展や、ノウハウ蓄積による営業力の強化が奏功し、営業利益は従来予想を確保できるとみている。

会社計画は、期初時点では新型コロナウイルスによる影響が不透明として未定としていたが、1Q 時点に、売上高が 84 億 31 百万円(前期比 7%減)、営業利益が 60 百万円(同 51%減)とした。当研究所予想は会社計画に比べ、売上高で 19 百万円、営業利益で 40 百万円大きい。営業拠点のドミナント化をはじめ、効率化の進展が利益貢献するとみていることが要因。

22/3 期の連結業績予想は、売上高を 91 億円→88 億 50 百万円(前期比 5%増)、営業利益が 4 億円→3 億円

企業価値研究所

(同3倍)に減額する。21/3期を見直したため、減額したが、新型コロナウイルスの感染の影響が小さくなる
とみており、増収増益見通しは変わらない。主力の在宅介護サービス事業はデイサービスの堅調な回復や、
訪問入浴の新規顧客獲得が貢献する。シニア向け総合サービス事業も回復しよう。利益面ではドミナント化
進展による効率性向上や、高採算のシニア向け総合サービス事業の貢献などが見込まれる。人件費をはじめ
とした費用増を吸収し、売上高営業利益率も改善する見通し。

新型コロナへの対応など

同社の事業は、高齢者が対象となるビジネスが多く、新型コロナウイルスへの感染に対する予防を徹底し
ている。このため、感染がピークアウトしても、様々な手間がかかり、主力サービスであるデイサービスの
既存客の稼働率が急速に戻るのには容易でない状況だが、好調な訪問入浴の強化による新規顧客の獲得、増店
をはじめ営業力強化によるシニア向け総合サービス事業の強化を進め、業績計画の達成を目指す考えだ。な
お、新型コロナウイルスの感染拡大の長期化に備え、手元資金を拡充。21/3期1Q末の有利子負債は11億39
百万円(20/3期末3億95百万円)となったが、ネット資金(現預金-有利子負債)は20/3期末5億62百万円
→21/3期1Q末5億39百万円と高水準を維持。財務健全性は確保していると評価できよう。

中国(上海)ビジネスは、介護サービスで事業構造の見直しを進めているが、エンゼルケア事業は湯灌サー
ビスをはじめ、受注案件の獲得が続いている。徐々にビジネスが軌道に乗り出したようだ。

ディスクレーム

1. 本レポートは、株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）が実施する「アナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、東証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が東証に支払った金額すべてが、東証から株式会社 QUICK（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、東証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、東証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、東証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、東証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を東証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、東証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

<指標の説明について>

本レポートに記載の指標に関する説明は、東京証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <https://www.jpx.co.jp/listing/ir-clips/analyst-report/index.html>